



今野正明議員 政権交代・変革期の自治体運営は

町長 町民の生活と安全安心な暮らしを守ることに責任を持つ

■変革期には

今野 国政などの変革期こそ、それに耐え得るビジョンを持ち、真の自立した地方自治の確立が求められるものだと思いますがどうですか。

町長 いかなる政治状況や政権交代が行われたとしても地方自治体としては、町民の生活を守り、安全で安心して暮らせるための責任ある行政運営を行っていくものと考えています。

■第5次総合計画の 将来ビジョンは

今野 第5次基本構想の理念を町民とともにつくる共創のまちづくりとしているが、特に力点を置くのは何ですか。

町長 教育と人づくりを重視、雇用の場を確保する企業誘致、さらには太陽光発電などの環境の面から新しい産業を創っていければと考えています。

■新しい公共の確立は

今野 基本構想には町民主体のまちづくりや新しい公共の確立とあります。一方で昨今、地域コミュニティの崩壊とか老人クラブや婦人会などの組織離れといったことも耳にしますが、これらの原因をどうとらえていますか。

町長 ほとんどの人が勤め人になつてきたことなどの社会情勢の変化や、小泉政権下での三位一体の改革による補助財源の減額などによる一因ではないかと認識しています。

■中山小学校跡地 利用計画は

今野 以前にも私が一般質問している中山小学校の活用ですが、あれから4年が経過して中山地区での検討も結論に至らず、町に返されたと聞きます。

年間200万円ほどの維持費がかかっている現状のなかで、今後は口ス時間のないよう根底からの行政の

対応を求めますがいかがですか。

町長 今後は平成20年度に策定した方針をベースに、関係各課にプロジェクト会議を立ち上げて再度検討していきます。

■鮎貝まちづくりの 締めくくりは町の 水準を決定づける

今野 夢や希望をもって土地を提供した地権者にとって、行政の計画変更や社会

情勢により販売不振で精算の負担を負うのは酷だと考えます。公社・行政の役割や使命を考え、将来に禍根を残さない締めくくりを求めます。

町長 将来に負担を残さない形で精算していく方向性を見出す必要があると思っています。将来に禍根を残すことのないよう、最終的には町民の皆様にご負担をお願いすることも含んだなかで考えています。



四季の郷交流広場